



牽牛のイラストレーター画法 タブレット Tips 編

ドローソフトのAdobe Illustratorは、デジタル・イラストの基本となるソフトだ。「ベジェ曲線」をマウスを使って、ハンドルのコントロールをしながら描いたりするのは、いかにもCGという感じである。

ビットマップのペイント系ツールと比べると、ソフトの価格が高額なことや、モニターだけでは仕上がりが確認できず、出力用のポストスクリプトプリンターが必要とされたりすることなどから、どちらかと言えばIllustratorは、専門家が使う「製図」用のソフトとして理解されているようだ。

ところが、バージョンアップした、Illustrator 8では、驚くほどに「描画」機能が充実されている。

図形やパターンを制作するだけでなく、絵を描くということでもIllustrator 8は、強力なツールとなったわけだ。

ワコム社から、全く新しい「インテュオス」と言うタブレットシステムが発売された。

これまで私が使っていた同社製タブレット「UD-608」に比べ、解像度や筆圧感知能力が数倍アップされたらしい・・・。

今回は、この「インテュオス」と「Illustrator8」で、出来る限りデジタルを感じさせない「絵」を描いて見た。

左の絵がそれだ。

ビットマップのペイントソフトで描いたもののように見えると思う。

タブレットを使って描けば、ドローソフトでも、ペインターやフォトショップなどのビットマップソフトとあまり見分けがつかないものが出る？のかという

必ずしもそうではない。

そう出来るような工夫が、Illustrator 8にはあるのである。

詳しい解説は、AGOSTO「アート & デザイン」Vol.6にも掲載されているのでこちらと合わせて読んで下さい。
牽牛へのご連絡は ホームページからメールを

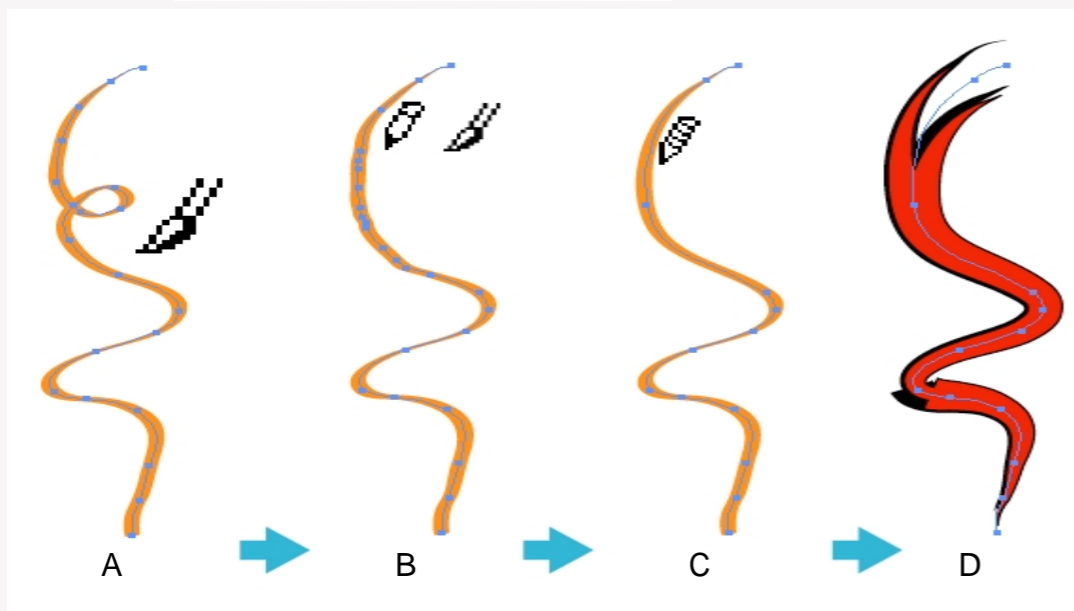
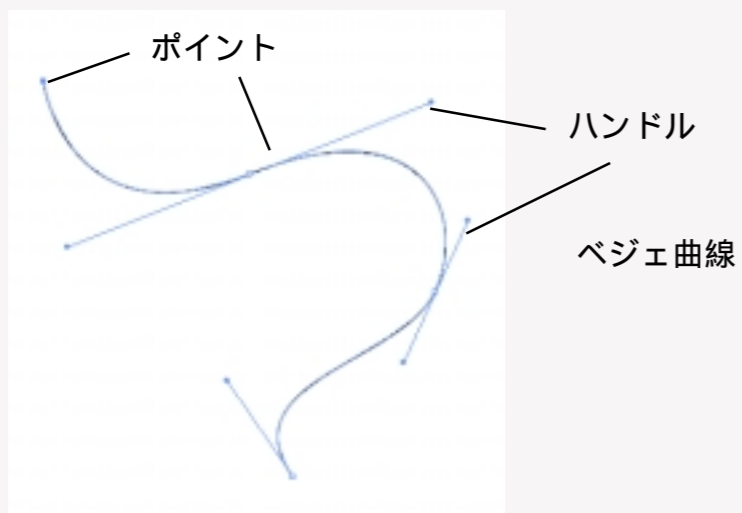
クリック --- <http://www.kengyu.com/>



バージョン7のプレビュー



バージョン8のプレビュー



まず、Illustrator8は、画像表示にアンチエイリアス処理がほどこされるようになり、印刷結果と変わらない表示のまま描画が出来るようになっている。

このことは、決定的な違いだ。

微妙な筆圧の変化や、細かい線の表現の確認には、アンチエイリアス表示は不可欠である。

Illustratorなどのドローソフトでは、描かれたものはオブジェクトと呼ばれる。

そして、オブジェクトは、線によって描かれる。

この線を、コンピューターのポインティングデバイスである「マウス」で描くのに都合良く作られているのが、「ベジェ曲線」というものだ。

「ベジェ曲線」で、望み通りにカーブを描くことは、なかなか難しく、経験が必要とされる。Illustratorの敷居の高さは、この「ベジェ曲線」の使いにくさにあるとも言われている。

ところがIllustrator8では、この「ベジェ曲線」をタブレットで描くのに都合が良い工夫がされている。

どうやるのかといえ、望むカーブの通りにタブレットで描くだけなのだ。

まず、ブラシで線を描いて見る。A（タブレットを使うと抑揚のある線画引ける。）少し望みと違うなあと、言う場合。

これまでは、マウスで、ベジェ曲線のハンドルをつまみ、伸ばしたり回転させたりして、調整をしたが、

Illustrator8では、そのベジェ曲線を「選択」したままにして、その上をタブレットで、正しい形になぞれば自動的に調整されるのである。B(ペンツールかブラシツールで)ポイントの数が多くなりすぎたと感じる場合は、スムーズツールでなでてやる。Cこれだけで、マウスで懸命に調整しなくても望み通りの線を綺麗に引けるのだ。線のデーターを「アートブラシ」に変更すれば、そのまま様々な線に変えることができる。D



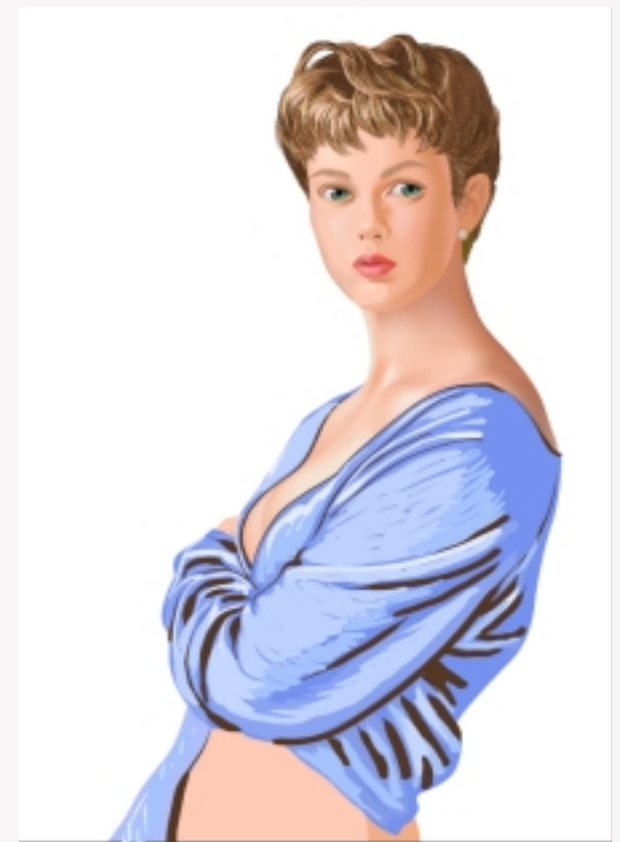
1 ドットで描いた下描き



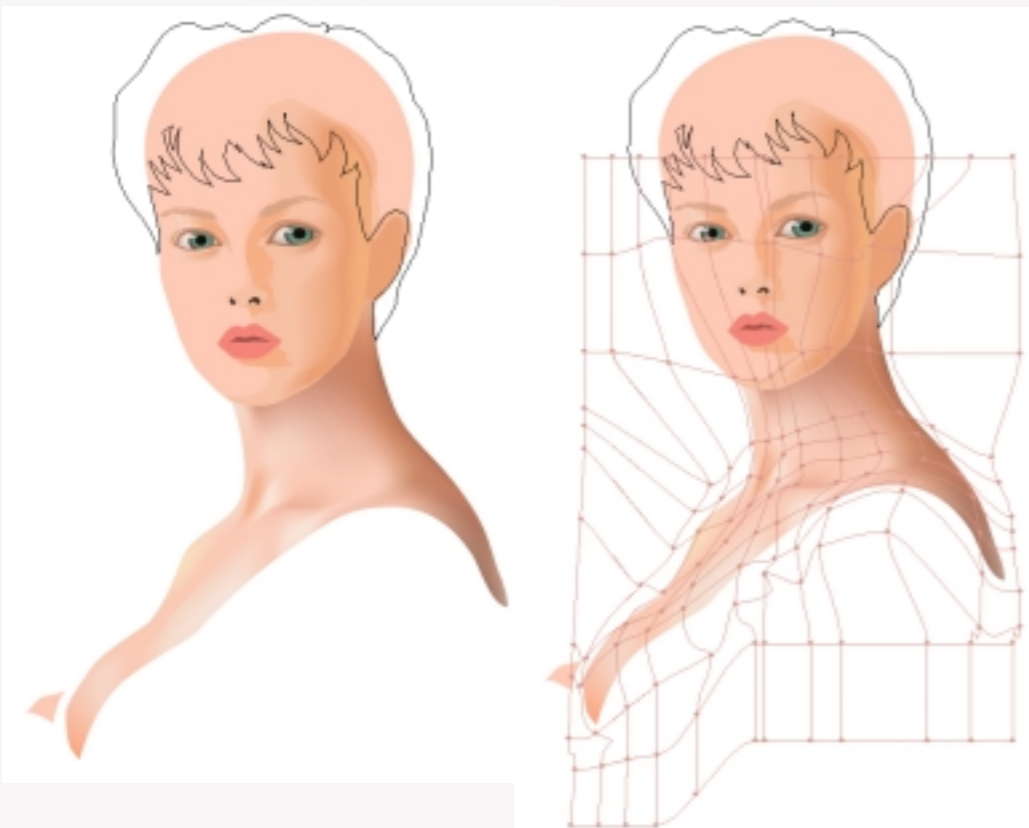
鉛筆ツールで各下地となる色面を描く



各色面に明暗をつける。
ここまでは切り紙で絵を作るのと同じ



タブレットで、ペイントソフトと同じように描き進める

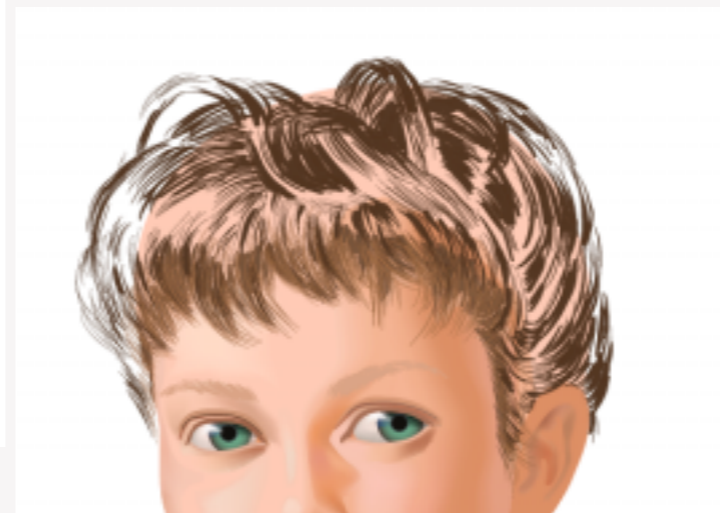
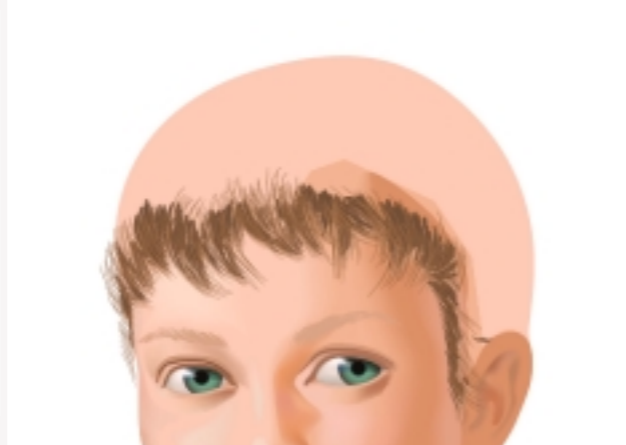
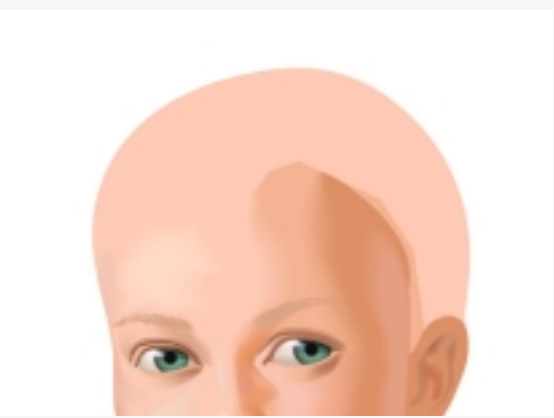


色の变化を浸けたグラ
デーションメッシュに
首胸の形状オブジェク
トをマスクしている

ところで、エアブラシなどのように滑らかな描写を作ることに関してはとびきりの新機能「**グラデーションメッシュ**」がついた。人物の首と胸は、グラデーションメッシュによる1つの色面だけで、描いてみた。

任意の形状の色面をグラデーションメッシュツールでクリックすると、クリックしたポイントで色面がメッシュ状に分割され、そのポイントから選択色を滲ませたようなグラデーションが出来上がる。メッシュの交点が、それぞれの色情報を持ち互いにグラデーションを作るのである。これらのメッシュは、位置調整が可能なため、細かいメッシュを作り計画的な色配分をすれば、1個の色面だけで複雑な描画が出来上がる。エアブラシでイラストを描いた経験のある人なら嬉しくなってしまう機能である。

複雑でありながらデータの容量は、小さくて済む。グラデーションメッシュには、これまでのアナログ的方法論からだけでは予想のつかない表現の可能性があると言える。



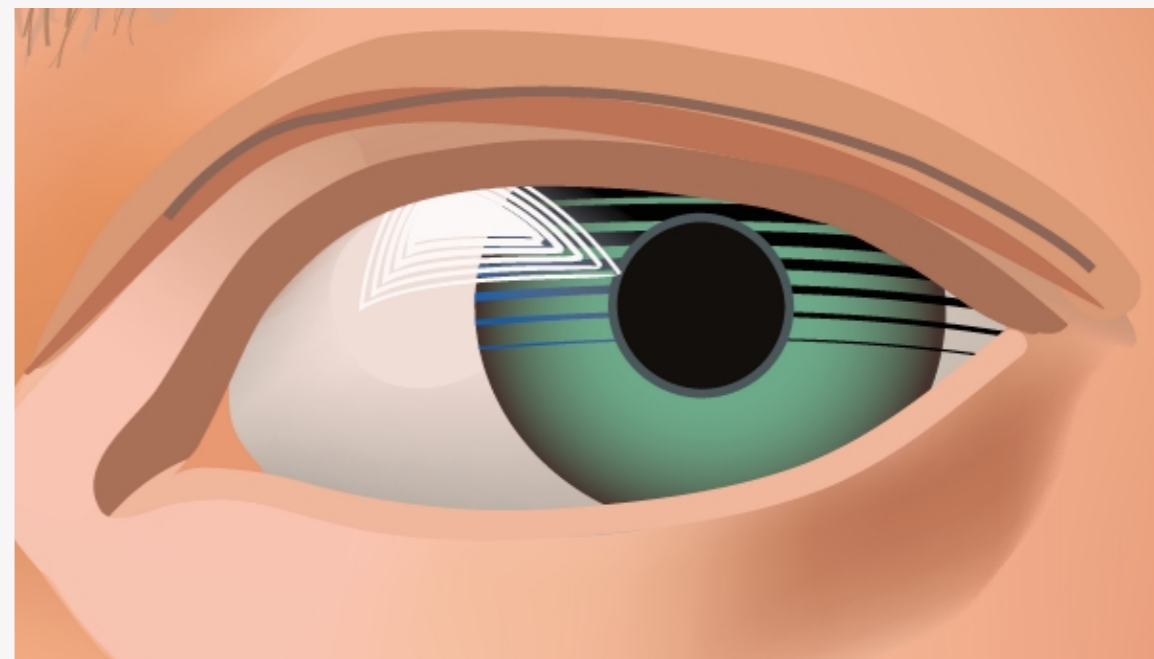
髪の毛は、1本1本実際にタブレットで描いてしまった。

プレビューにアンチエイリアスが施されるようになったIllustrator8では、極く当たり前に「描く」ことが出来るのである。

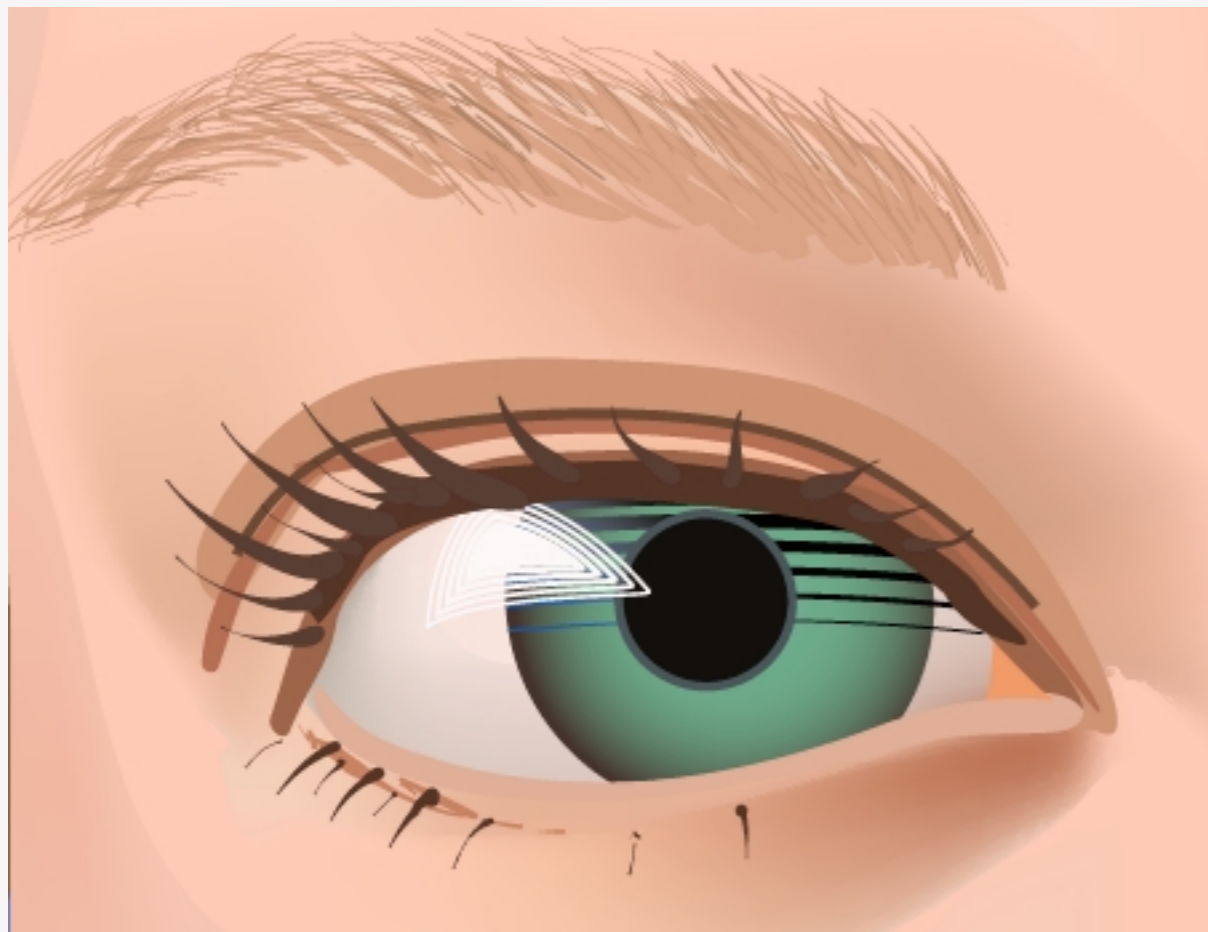
タブレットを使って、書き始めと書き終わりが細くなった・・・すなわちサーっと描いたような線を1本描く。髪の毛はすべて筆圧の効く「カリグラフィブラシ」で描きたいところだが、通常の方法で描いたのでは、なかなか切れのある線にはならないので、代表的な線を作り、これを「アートブラシ」に登録して髪の毛を描いた。



Illustrator(ドロー)画が、他のデジタルペイント(ビットマップ)と異なる点は、描きはじめから仕上がりまで有効となっているすべてのタッチや色面が、独立したオブジェクトとして存在しているため、どの時点で描いたものであろうといつでも自由に(個別な)修正が可能であるということだろう。思いつく限り個別のレイヤーとして残すべきだ。最終的にレイヤーは90を超えた



Illustratorは、透明色の表現がまだ出来ない。そこで、透明色を使いたいところは、下が透けて見える線の束を利用する。眼のアップをお見せしよう。



虫眼鏡で見なければわからないような細部でも、拡大して描けば、タブレットの筆圧を効かせた描写が出来る。これは、通常のペイントソフトでは望めないことでもある。実際、タブレットとの相性が最も良いのは、ペインターやフォトショップよりも Illustrator のほうであると実感した。

このように小さな線も、A3の対角線という巨大な線でも、ソフトにとっては、おなじ負荷にすぎないからだ。

まつげは、最終的には、カットしたが、気楽に描いて、気に入らなければアンドゥか、修正すればよいので、望む通りに描くことが可能だ。

細部描写に関しては、新しい「インテュオス」の独壇場と言える。

しかし、最新の「インテュオス」といえど、ペンの払い部分は、細くなりにくい。(ストロークペンというものだと・可能なのかも知れ無いが・・・)

そこで、まつげは、先端から徐々に筆圧を上げるやり方で描いた。

うまく描けたら、それをコピー・ペーストして増やし、修正するのも良いだろう。

「インテュオス」の4Dマウスで画面を回転させる機能というのが Illustrator でも可能になれば、こうしたタッチの方向性にも悩まなくてすむ早急に Illustrator に4Dマウス対応ソフトとなって貰いたいところだ。



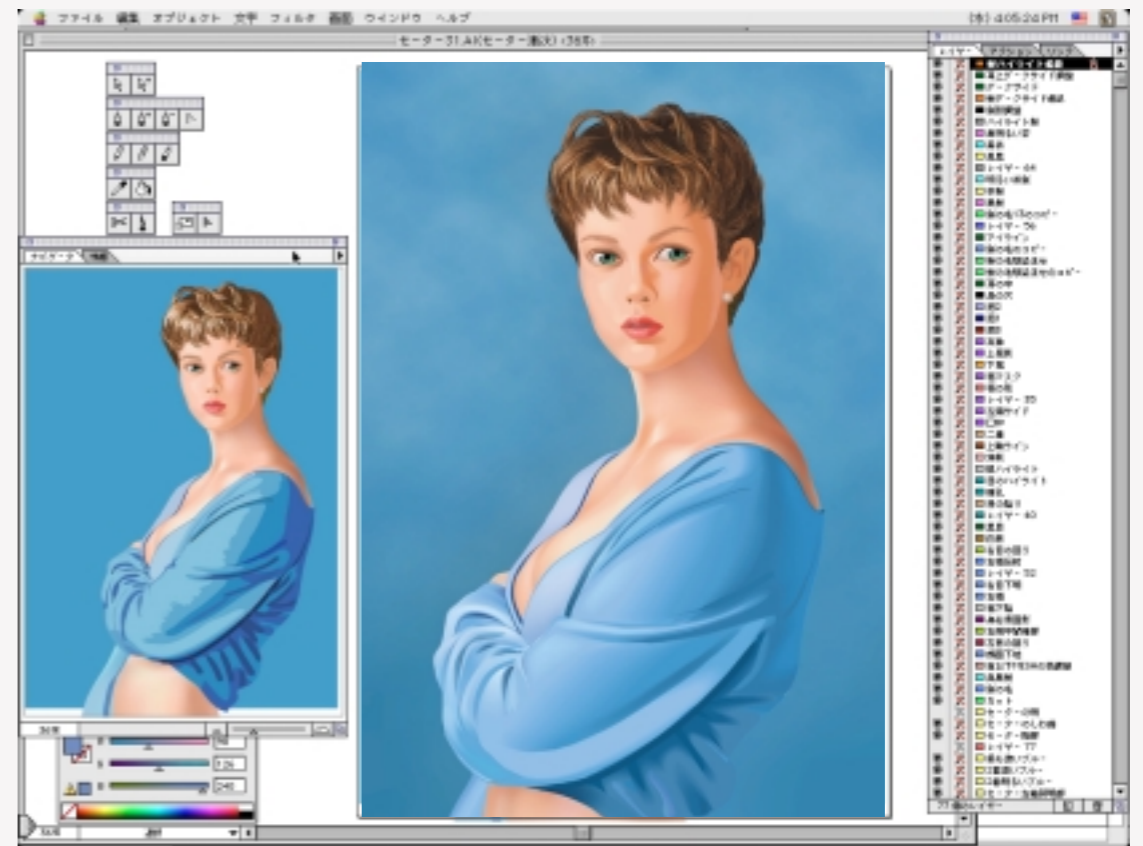
服の皺などは、タブレットのブラシで、ざっと描いておいて、「面」に分割してからグラデーションをつけていった。

これまでは、マウスでプチプチ色面を作っていたのだが、それではどうしても「トレース」したような感じになり勢いが出せない。

タブレットで描くことが、描画ということなのであることを再認識する。

ブラシでぐちゃぐちゃに線が重なっても大丈夫、まとめて「分割」して「パスファインダー」メニューで、一つの色面に合成してしまえばOKだ。

面にしてしまうと、データも軽い。



完成したら Illustrator8 の方から、フォトショップ5データや、PICT データとしてラスターライズ出力し、ビットマップ画像として最終的なデータ処理をするのが良いだろう。

色の全体的変更も簡単である。

すべてを Illustrator で仕上げるのではなく、Illustrator 画を原画として、出力にあわせたバリエーションを作ることが現実的と言える。

しかし、Illustrator がタブレットと連携したことで、作図専用ソフトでは無いことが、おわかりいただけるのではないかと思います。

塚崎 健吾 (牽牛 けんぎゅう)

デジタル・イラストレーター

2D イラストには、ドロー系を利用する事が多い。

三菱やキヤノンのカラープリンター評価画像及びキャラクターをイラストレーターで制作。

イラストレーター使用歴 バージョン 1.88 より。

E-mail kengo@kengyu.com

HomePage <http://www.kengyu.com/>

